
特 集

非平衡統計物理学の展望

— 田崎秀一さんを偲んで —

Perspectives of Nonequilibrium Statistical Physics
— The Memory of Professor Shuichi Tasaki —

2010年6月6日、田崎秀一さんはご逝去されました。田崎さんは、ベルギーの国際ソルベイ物理化学研究所、故福井謙一博士が所長を務めておられた財団法人基礎化学研究所（現、京都大学福井謙一記念研究センター）、奈良女子大学を経て、2002年4月1日に、早稲田大学教授に着任されました。

非平衡統計力学の基礎的側面の研究を進める中で、カオス力学系における予測不能性に魅了された田崎さんは、個別の現象には普遍法則の抽出だけでは十分に捉えきれない側面があり、その「個別性」に着目することの重要性を強調されていました。研究対象として、「個別性」を重視する彼の姿勢は、「個々人の顔が見える」教育・研究を大切にする熱血的な姿勢に反映され、国内外の学生さんから研究者まで幅広い人のつながりをもっておられました。

田崎秀一さんの追悼特集号が構想から1年程を経てようやくここに完結しますのも、「個別性」を重んじながら「個々人の顔が見える」教育・研究を推進されてこられた彼自身の人間性に、国内外の執筆者が魅力を感じ、その魅力に強く惹きつけられたからこそ可能であったと、私は確信しております。

この特集号企画の準備期間中に、田崎さんの遺稿である講義ノート「無限系の非平衡統計力学」を、多辺由佳さんが膨大な資料のなかから発掘され、その遺稿を『物性研究』（2011年6月号）に収録することができました。物性研究刊行会より、田崎博子夫人に掲載号をお送りしましたところ、ちょうど田崎秀一さんのご命日にお届けできる奇遇に恵まれました。田崎夫人から「夫が書いたものを一部でも雑誌に掲載していただくことには、何かの意味があるかもしれない・・・出版されとてもうれしく思っております。ありがとうございました。」としたための封書を頂戴しました。

このように本特集号の完成までの間、さまざまなドラマがありました。特に、執筆依頼から具体的な内容に関する議論や細かい調整などでは、田崎研出身の鯉坂 繁さんの献身的な努力がありました。

このような特集号を出版できることに、私たち編集委員一同、ご尽力いただきましたみなさまに心より感謝いたします。

物性研究編集長
村瀬 雅俊



Professor Shuichi Tasaki (1958-2010)



Dr. Shuichi Tasaki with Professor Ilya Prigogine (1990)



Shuichi Tasaki, a professor of physical sciences at Waseda University, died on June 6, 2010. He was 52.

Professor Tasaki attracted many students as well as scientists. He had interested in complex dynamical systems especially the strange behavior of chaotic dynamic. Instead of strongly based on mathematical techniques, he enjoyed physics and its meaning in the nature of complex systems including even living systems.

Professor Tasaki emphasized the important role of individuality among generality. His attitude of this kind is not only found in the research work, but also in the everyday-life. Of course, he is a very strict person especially on his own studies. Even after he finished writing his paper, he started to rewrite most of the paper again and again. The style was completely changed from the original one.

We now publish the memorial volume of Professor Tasaki. Many distinguished authors enthusiastically wrote their own papers in relation to Professor Tasaki's studies. Of course, his attractive personality invited these authors to write their studies. I strongly believe that this volume must be one of the most valuable publications by Bussei Kenkyu.

Masatoshi Murase
Chief Editor
Bussei Kenkyu
October 20, 2011